TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

これが神のやり方-神さまが計画された救いの方法 -

神の怒り　ローマの信徒への手紙　1 章 18-25 節

2026 年 5 月 23 日 & 24 日
余沢 武 牧師

I. はじめに

皆さん、こんにちは。TBCのメンバーの皆さんは、来週末 5 月 30･31 日のファミリー･ギャザリングで承認予定の予算案を既に受け取られたかと思います。当日、ご出席になれない方は、本日中に不在者投票用紙をご提出ください。必要事項にチェックを入れ、献金バスケットにお入れください。

今日はローマ書の学びを続けていきます。パウロは、ローマに行って福音を教えたいと願っていました。

1. 彼はこう言っています。「私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力です。神の義が、福音の内に、真実により信仰へと啓示されているからです。」
2. 今日は、なぜ私たち全員に、この「神の義」が必要なのかを見ていきます。

まず祈りましょう。

II. 神の怒り

（1）神の怒りの表れ

ローマ書 1:18-19「不義によって真理を妨げる人間のあらゆる不敬虔と不義に対して、神は天から怒りを現されます。なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らには明らかだからです。神がそれを示されたのです。」

「神の怒り」とは、悪に対する神の聖なる怒りと裁きのことを指しています。
「神の怒り」は、「不敬虔な者」と「不義」、つまり神に逆らう者と、人が神に逆らってする行動に向けられています。

パウロによれば、神の怒りは「不敬虔」で「不義」な者たちの上にあります。

20 節にこうあります。「神の見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造以来、被造物を通してはっきりと認められるからです。したがって、彼らには弁解の余地がありません。」

人間は神の創造された世界を通して、神の「永遠の力」と「神性」を見ることができます。どんな言い訳をしても、万物を想像した神が存在することを知らないとは言えません。だから神はすべての不敬虔と不義に怒るのです。

たとえば宇宙船で遠い惑星に行き、そこで椅子を見つけたとしましょう。私たちはすぐに「ここには知性ある存在がいたに違いない」と考えます。ピアノやフェラーリ、人型ロボット、スーパーコンピューターがあったとしても同じです。偶然、何かの拍子で椅子ができた、とは誰も思いません。

地球上でも同じことが言えます。誰かが「土を何百万年も放置しておけば、そのうち偶発的に椅子やフェラーリ、人型ロボット、スーパーコンピューターになる」と言ったら誰も信じません。

ところが「人間」となると…。人間は、最高性能のコンピューター搭載の人型ロボットよりも、はるかに高度で複雑な存在です。地球にある食べ物や水を摂取して自らエネルギーを補給し、自分で体を修復し、さらに新しい命を生み出すことができるのです。

でも誰かが「土をここに何百万年も放っておけば、偶然の積み重ねでそのうち人間になる。」と言ったら、みんな信じるのです。

それだけではありません。椅子やピアノ、フェラーリ、人型ロボット、スーパーコンピューターの基礎構成を見れば、すぐに分かります。それらは木材、金属、プラスチックなどでできた様々な部品を人間の手によって組み立てたものにすぎません。

一方、人間の基礎構成を調べると、いえ、小さな虫や一本の木でさえも、そこには、その体を構成する全ての組織を分子レベルから生み出している驚くべき生体システムが存在することが分かります。DNAの情報を読み取り、解釈し、タンパク質を組み合わせ組織や器官を造り出していく仕組みが備わっているのです。

さらにその命を保つために、太陽、月、無数の星が適切な位置に設置され、適切な日光、雨、気温が備えられています。この世界全体は正に、人間の想像をはるかに超えた偉大な傑作です。それなのに、世の人々は平然と言います。「もちろん、全部が偶然にできたのだ」と。

しかしパウロはこう語ります。「神の見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造以来、被造物を通してはっきりと認められるからです。したがって、彼らには弁解の余地がありませんしたがって、彼らには弁解の余地がありません。」

21節「なぜなら、彼らは神を知りながら、神として崇めることも感謝することもせず、かえって、空しい思いにふけり、心が鈍く暗くなったからです。」

問題なのは、人間が、「神がいるかもしれない」とは考えてもみたことがない、ということではありません。

問題なのは、人間が、
1.「神を神として」崇めていないこと。私たちは神を、命を与えてくださった方として敬わず、信頼し、より頼むべきお方として認めようとしません。
2.「感謝を表していない」こと。神に感謝せず、神のことを考えたくもありません。

この問題は、アダムとエバの時代から始まりました。神は彼らを祝福し、すべての被造物を治める権威を与え、園のあらゆる木から自由に食べてよいと許されました。ただ一つの例外として園の中央にある木だけは食べてはならない、と命じられました。「それを食べると、あなたがたは必ず死ぬ」と。

ジェームズ・ボイス牧師はこう述べています。「あの木の実を食べることほど、理にかなわない行為はなかった。」他のすべての木の実は自由に食べられたし、神は一度たりとも彼らを欺いたことがありませんでした。神を信頼しない理由など、どこにもなかったのです。その木から食べれば、得るものは何もないだけでなく、全てを失うのです。

では、なぜ食べたのか。サタンの嘘のせいでしょうか。それもありますが…。その木は、彼らにとって自分たちの限界を思い出させる存在でした。人生を完全に自分でコントロールしているのではなく、常に神と神の知恵に依存して生きる必要があることの象徴だったのです。

同じように、私たちも神と神の御言葉を喜んで敬おうとはしません。私たちに自分の限界を思い起こさせるからです。私たちが自分の人生を完全にコントロールしているわけではなく、いつも神と神の知恵に頼って生きなければならない存在であることを意味するからです。そして、自身の上に立つ権威が存在することを思い出させられるからです。

これこそが、人間がしようと決めたことです。パウロは22-23節でこう語っています。**「自分では知恵ある者と称しながら愚かになり、不滅の神の栄光を、滅ぶべき人間や鳥や獣や地を這うものなどに似せた像と取り替えたのです。」**

惑星や星々、虫、魚、爬虫類、鳥、獣、そして人間も、そして全て生けるものの生体システムに至るまで、全てを創造し支えておられる神の知恵と力に信頼し、より頼む代わりに、私たちは自分自身や他の人間、すでに亡くなった人や、人・動物・鳥・爬虫類の像などを信頼し、それに依存することに決めたのです。他にもお金や地位といった、人間が作り出したもの。万物を創造し、全てを養う神ではなく、それらのものこそが私たちの必要を満たし、いい人生を与えてくれると信じているのです。

人生で困難に直面すると、全てを造り、全てを養い支えているのは神なのに、私たちは神のことを考えようとしません。
「神様は何をしているんだろう」、「神様はこの状況で私にどう対応してほしいのだろう」とは考えません。

神を思考から追いやって、「なんで私は失敗したんだろう。」、「誰のせいでこんなことに。」などと自分自身

で問答し、他の人や、何でもかんでも自分が信じている物の像に相談します。
私たちを養ってくださり、助け導こうとしてくださっている神を認識することを拒否します。

(2) 神の怒り

24－25節「そこで神は、彼らが心の欲望によって汚れるに任せられ、こうして、彼らは互いにその体を辱めるようになりました。神の真理を偽りに替え、造り主の代わりに造られた物を拝んでこれに仕えたのです。造り主こそ、永遠にほめたたえられる方です、アーメン。」

そして神は、次のようにして私たちに御怒りを示されます。「彼らが心の欲望によって汚れるに任せられ、こうして、彼らは互いにその体を辱めるようになりました。」

まるでルカ15章の放蕩息子のようです。彼は父に遺産をすべて求めました。父はその願いを受け入れて、自分の保護下から手放し、彼の心が望むままに任せました。

神に背いた生き方を望む者に神の怒りと裁きが下るとき、神はその聖なる保護の下から私たちが去るがままにされ、私たちを自分の心の欲するままに任せられるのです。

そしてパウロによれば、私たちが聖なる神の保護下から離れるとき、私たちが最初にするのは、「聖くないこと」を追い求めることです。アダルトビデをを見たり、聖書に基づいた男女の結婚前・外の性的関係におぼれたりするのです。

そして私たちは、神の栄光のために造られたはずの心も、霊も、体も汚し、貶め、堕落させてしまいます。その姿を見てサタンはほほ笑み、天の父は深く悲しまれるでしょう。私たちが自ら望んで、神の真理を偽りと引き換えにしてしまったからです。

パウロはこう語ります。このように神の怒りが表され、神が私たちを自分の欲望に引き渡されたから、しかし、神がなお私たちを愛しているからこそ、私たちを救うために、先週学んだように「神の義」が私たちに明らかにされたのです。

神は御子イエスを遣わし、私たちの罪のための死刑を身代わりに負わせ、その完全な義の生涯を私たちに与えてくださいました。

もし私たちが罪から離れ、イエスを主、救い主として受け入れ、へりくだってその赦しを受け取り、神を神として認めるなら、神は私たちを導き、守り、養ってくださいます。
どうか今日、イエスをお迎えください。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg2126jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 402
キリストの伝え方
5 月31(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ラングホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
6 月 14(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ラングホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

全クラス申し込み:
https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

急募！

1.日本語訳レイアウト&印刷

（女性 2 名募集）

英語のスキルは必要ありません。

・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

2.礼拝メッセージ翻訳

・1 か月半～2か月に 1 度、自宅でできます。スケジュールは都合に合わせて選べます。
英語と日本語が出来る方

3.日本語字幕オペレーター

9 時の礼拝の字幕オペレーターの募集です。
英語を聞いて日本語のページを矢印キーを押して進めるだけの簡単な作業です。
月1，2回。可能な日を月末に調整します。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org